



町長回誌

No.241

町長日誌の第 241 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

11月22日 (水曜日) PM3:30

昨夜、出張から戻り今日は一日町内行事が続きました。午前 10 時から沙留高砂会（老人クラブ）の 60 周年記念祝賀会に出席。午後からは興部高校 1 年生 2 名が一日警察官になって町内の事業所を訪問し交通安全を啓発する行事に参加。午後 7 時からは商工会主催の永年勤続並びに優良従業員表彰式に出席の予定です。高齢者の皆さんの楽しい余興や初々しい高校生の制服姿を見るにつけ上手く説明できないのですが「おこっぺはいいな！」と思った次第です。

11月15日～18日 (水曜日～土曜日)

『研修視察報告』

オホーツク管内 15 町村で構成する町村会では 4 年に 1 度首長全員で視察研修事業を行っています。今年がその年でコロナも 5 類に移行したことから 3 泊 4 日の日程で愛知・岐阜県内の 3 市を訪問しました。初日の 16 日は名古屋市の隣となる豊明（とよあけ）市を訪問して地域福祉、特に「豊明モデル」と言われる多職種合同カンファレンス（多数での協議会）の説明を受け、午後からは実際のカンファレンスを見学しました。豊明市は名古屋市のベッタウンとして人口は 6 万人を超えています。古くから住んでいる団地等の高齢化が激しい一方、市役所職員は大半が名古屋市などから通っており街への愛着が薄いことが悩みだと市長は言われていました。しかし、豊明市には日本最大の病床数 1435 床を有する藤田医科大学病院があり、この病院が核となり市内の様々な病院や介護施設職員、ケアマネ、看護師、歯科医などが一堂に会して参考症例や介護の状況を皆で議論することで市内の医療福祉関係者が学習し連携していけるようにするのが合同カンファレンスの狙いです。8 年が経過するそうですがとても良い成果を上げて居るようです。個人情報と言う課題もありますが情報を共有することや異なる施設等の手法を学ぶことの大切さを感じました。

翌 17 日は岐阜県の視察です。午前家具木工の街、高山市で「移住定住」について研修を受けました。高山市は H17 年に 10 の市町村で合併した街で「高山家具」で有名と聞いていたので林業も盛んなのかと思っていたのですが現在林業・製材業は全て廃業しており家具用の原木は道産材や輸入材を使っていると聞き驚きました。今は宿泊業が最大の産業なので市としては地元に住み IT などを生業とする人材の育成や移住推進しています。そのためのお手伝いや相談を受けるサポートセンターを R 3 年に立ち上げたとのことでした。

午後からは飛騨市を訪問しました。飛騨市も H 16 年に 2 町 2 村が合併して 20 年が経ちます富山市の隣町で人口は 2 万人いますが人口減少が激しく高齢化率も 40% を超えています。とにかく市長がお元気で、飛騨市が大ヒットアニメ映画「君の名は。」の舞台となったことから聖地となり大勢の若者が押し寄せたことをヒントに移住定住ではなくファンクラブを作り定期的な応援や地元民とコミュニケーションをとることが出来る「関係人口の創出」に市長自らが奔走し現在 12,377 名の会員数となりました。この会員がふるさと納税額を押し上げ、定期的に飛騨市を訪れて活動する「ヒダスケ（飛騨市を助けるという意味）」を創設するなど、全国の人が関係者であるという発想力に感心させられました。

4 年に一度ですが 15 人の首長がスケジュールを合わせるは大変で今回も二人が途中で離れました。しかし、宿泊地やバスの中などで様々な会話が生まれより親密になる等珍道中ならではの成果もあったように思います。同じような行政を進めていても町が異なれば手法が異なったりもします。豊明市の合同カンファレンスのような学習や意見交換の機会はとても重要だと再確認した研修視察でした。

インフルエンザが流行っています。季節の変わり目ですからご自愛ください。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131 です。